



びっぴだより No.2 2019. 4. 26

先日、びっぴの入園式に伺わせていただきました。

ほんと素晴らしい一日でした。

絵の先生、小林郁絵さんとコラボレーションはとても良い時間でした。

郁絵さんの誘導による、みんなで作る絵の世界。

イメージネーションを沢山くすぐられ、色々な物語や音楽が湧いてきました。

森の中で、大人も子どもも五感を解放して過ごすいい時間。

毎日これを行っている子どもたちがうらやましくなりました(笑)

僕が作った「ばくの木 わたしの木」「ピッポロピッピ ポロピッピ」もしっかり歌い継がれていて、とっても嬉しかったです。

手話なども付けて頂き、歌が育っていることが嬉しかったです。

僕は音楽を生き物だと思っています。

この曲達を作るにあたり、スタッフの皆さんの想いを沢山言葉で頂きました。

そう、この曲達はその言葉の向こうにある日々の教育現場としてのびっぴ、そしてその上で育まれる子どもたちの成長をエネルギーにしてできた曲なのです。

とても僕一人のイメージネーションでは作り得なかった曲です。

そういう曲は自分の手から離れたあとに成長していくんだ!と・・・音楽の本質を垣間見た思いがしています。

こだわりのとても美味しい昼食を頂いた後、森の奥で数人の大人や子どもとセッションが始まりました。

楽器や自然物を鳴らしながら、思いついたいい加減な歌を歌ったり、体が欲するままに踊ったり、感じることに身を委ねたりする最高の時間でした。

森の中でいつまでもいつまでも。

ここでしか生まれえない音楽がありました。

自然界から、そして子どもたちの解放された魂から沢山のギフトを頂いた最高の一日でした。

園舎をもたないびっぴ。

ここにくると大事なものを思い出します。

僕の子供は18歳になり、それぞれの成長を遂げています。

けれど幼少時期に子どもと過ごした時間は今でも人生の宝物です。

びっぴの森で日々生まれているもの。

それは関わるみなさんにとって、素晴らしい人生の宝物になっていくはずです。

間違いなく。



:オギタカ(荻原崇弘)


自然と友だち ～4月 アマガエル～

寒さが和らぎ、暖かい日ざしの温もりが感じられる季節になってきました。

ある日、びっぴの森で、澄佳さんがカエルを見つけました。カゴの中のカエルをのぞき込む子どもたち。野野花さんは、カエルにあげるごはんを探し、その生き物さえも、かわいがるていたそうです。英志君たちがカエルのことを本で調べ始めたのをきっかけに、「うまかエル?」「茶色いカエルだね。」と口々に話しています。バケツの水の中に入れると、たろんとしたまま。「カエルなら、泳ぐところを見せてくれよ～」と紘平君。「お腹すいてるんじゃない。」「かわいそうだよ」と澄佳さん。自然に返してあげることには、「どこに戻してあげたら嬉しいかな」と問いかけると、「田んぼじゃない。」「どこにいたの?」「向こうの二本の木の間!」「行こう!」と走り出す。土の上に放すと、「あれ、どこにいるんだろう?」枯葉の色と見事にそっくりに。元いた場所に返されて、カエルは嬉しそうに目をつぶり、後ろ向きに地面へズズズともぐりました。「ちょっと見ようよ」と紘平君。翔々君は枝でつついてカエルさんと遊びたい様子。人によって違う面白い反応。

今回、出会ったのはアマガエルでした。緑色のイメージがありますが、背景に同化させ、体の色が、雲状のまだらな灰色や茶色であることがあります。他の茶色いカエルと見分けにくいですが、よく発達した吸盤と、目の横の黒帯線が特徴です。

この吸盤のおかげで、吸盤→ 垂直の水踏などでも、(あし)  (目の横) つかまって移動することができます。田んぼの他に、森林や水辺の植物の上でも見られるので、カエルを見つけたら、アマちゃんかどうかな、ぜひじっくりのぞいてみて下さい。:真理子

真理子さんの「新シリーズ」で、 たくさんお願いのしれす。